

# とつとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.113

2017 Spring

[巻頭特集]

しなやかに駆けた  
無銘の奇才

プロダクトデザイナー 小島基の軌跡

[特集]

熱く舞う伝道師たち  
鳥取荒神神楽研究会・神楽団



▶キセキレイ◀

体長約20cm。頭から背は青灰色で翼は黒褐色、白い眉斑がある。下面と腰は黄色。春から秋にかけて渓流で見られる。いつも尾を上下に動かすので「石たたき」などの異名を持つ。「チツ、チツ」と細く鋭く鳴きながら、大きな波形を描いて飛ぶ。セキレイと同じくらいの大きさだが、体重は半分のスマート体形。

参考文献\*『とつとりの野鳥』(2003年5月、鳥取県発行)  
写真提供\*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 桐原 佳介

読者プレゼント・編集後記	Voice 縁するまじる	企業紹介 大洋潜水・株式会社海難装備	Viva!LIFE 輝くUUターン者たち	鳥取のうま味 良い酔いはしげ酒 とつとり酒藏めぐり	コスパ高い本格和食 大谷酒造	特集 鳥取荒神神楽研究会・神楽団	卷頭特集 古今時代屋 郷HLOVEの紙芝居師 コロ画伯の絵日記帳 人JINの人の Human Life	宝探しの旅は、ここから プロダクトデザイナー小島基の軌跡	イラスト まさきたかこ		
32	31	30	28	27	26	20	18	15	14	4	2

●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。鳥取では今年、大雪が降った。山の雪は暫く残るが、やがて太陽に急かされて、融け出し、動き出した水がドーッと里まで降りてきて、一緒に春を連れて来た。



# とつとり 鳥取県総合情報誌 vol.113

2017 Spring



※カメラアイは休みます。



『騒がしい街』(デジタル・イラスト、51.5×72.8cm)

## 日常搖るがす幻想風景 イラスト まさきたかこ

動物や小鳥は本来、密林や草原の大自然に生きる。私たちが普段見る生き物は、檻の中に捕らわれているが、建物から頭を出したらどんな風景になるのか。まさきたかこさんのイラストは、日常を搖るがすそんなインパクトに満ちている。

街に登場するのは、ゾウ・サイ・キリン・ライオン・ヤギなど。子どもはそのまま人間の姿なのだが、「動物は大人の象徴」と悪戯っぽく笑う。獣は表情をあらわにしないが、擬人化で見る人の想像力を掻き立てる仕掛けなのだ。



『ライオン』(ペン画、33.0×33.0cm)

まさきたかこ

鳥取市生まれ。二科展デザインB部門で2009年に特選賞、15年にイラスト大賞、16年に会友賞。インターナショナル・イラストレーション・コンペティション優秀賞。二科会デザイン部会友。大阪府茨木市美術協会会員。



Takako  
Masaki

文／角秋勝治

撮影／田中良子

あーとの森  
Forest of Art

# しなやかに駆けた無銘の奇才



自らがデザインした椅子(虎尾光藝堂製作)に座り、作業をする小島(1954年頃)

## プロダクトデザイナー 小島基の軌跡

産業デザインという概念が定着していない戦後の鳥取で、家具をはじめとするさまざまな産業工芸分野の職人たちを精力的に指導し、全国に誇れる製品作りに貢献したプロダクトデザイナー・小島基(敬称略)。時代を先取りしたデザインで、産業工芸界に新風を吹き込んだその名と功績は、表だって語られるることはなかった。なぜなら小島は、最後まで「公務員デザイナー」に徹したからだ。

文／島 香子 写真提供／鳥取県立博物館

# Kojima Motoi



ロッキングチェア・ロッキンスター  
(デザイン:小島基 製作:鳥取家具工業=1966年頃)



下支え的な存在

### 小島基 年譜(1920~1999)

西暦(年)	年齢(歳)	年 譜
1920	0	6月2日、富山県高岡市に生まれる。
1943	23	京都市立絵画専門学校図案科を卒業。
1944	24	台湾総督府財務局営繕課に入省。台湾神社の装飾設計業務と施行管理などを行う。
1946	26	台湾から引き揚げ、高岡市に帰郷。この頃、絵画制作に没頭、絵画サークルを立ち上げ、百貨店で展覧会も。近郊に疎開中の棟方志功との交流もあった。
1947	27	神戸の摩耶特殊工業に入社。余暇に絵画に勤しみ、多数のスケッチブックを残す。
1950	30	摩耶特殊工業を退社後、3月に鳥取県工業試験場工芸図案部技師に配属される。初年度は主に県内各業界の状況を調査し、デザインのあり方を把握する。
1951	31	県下の工芸関係者をまとめるため、「鳥取県工芸会」結成に向けての指導を行う。
1952	32	4月に鳥取大火が発生、鳥取県工業試験場が焼失したため、業務がしばらく停滞する。
1953	33	3月、産業工芸試験所(※)意匠部長を迎へ、現代アメリカ工芸事情講演会・スライド映写会を開催。11月、鳥取県新作工芸展に斬新なデザインの家具製品試作を多数出品。
1957	37	7月、工芸図案部が産業工芸部になり同部主任に。
1958	38	鳥取市内で開かれた『新作家具とグッドデザイン展』をコーディネート。また同年、量産家具の品質向上のデザイン研究・指導を行い、多くの試作を打ち出す。同年に結婚、生涯の伴侣を得る。
1961	41	2~3月、サンフランシスコでの全日本輸出家具見本市に出席し、その後、アメリカ国内各地で工芸品、家具類を調査、視察する。
1963	43	5月に鳥取県工業試験場の機構改革で、各部はそれぞれ科となり、基は産業工芸科長に。12月1日に同場を退職。
1964	44	1月から大阪・布施市立工芸指導所に勤務。鳥取を離れた後も、しばらくの間、鳥取家具工業の製品デザイン及び指導を継続する。4月から大阪府立工業奨励館東大阪分館意匠課長となる。
1968	48	9月中旬~12月中旬まで、北欧諸国、西ドイツ、オランダ、イタリアへ出張。
1975	55	12月、大阪府立工業技術研究所主任研究員となる。
1981	61	3月31日、同研究所総括研究員として退職。
1999	79	8月7日、逝去。

フォークリビング4点セット  
(デザイン:小島基 製作:鳥取家具工業=1959年頃)  
若い女性をメインターゲットに想定して作り、全国販売で大ヒット。同社のシンボル的存在となる



台湾に赴く前に写した家族写真。  
前列左から2番目が小島(1944年)

手がけた作品の数々からは、自身のデザインセンスを柔軟に發揮したことなどがうがえる。加えて「私的な絵画やスケッチ、デザインカットなどどれをとっても、とにかく絵が巧い」という印象」と語る三浦さんは、調査にあたって知れば知るほど、その非凡な才能に胸が躍ったという。

「小島基の存在を知ったのは、元鳥取県産業技術センター産業デザイン科長の田上重雄さん(故人)との交流がきっかけでした」と話すのは、展覧会を企画した鳥取県立博物館の学芸員・三浦努さんだ。小島が職務としてデザイン活動を行ったのは1950年~81年の約30年間。鳥取県工業試験場、大阪府立工業奨励館に勤務する公務員だった。鳥取時代の肩書や呼称は、図案部技師・研究員などで、デザインにあたる用語も「意匠」や「図案」が使われた時代だった。

鳥取県の産業工芸界の展開に大きな役割を果たした工業試験場は、現

在の産業技術センターの前身であり、活動時期は異なるが、田上さんは小島の後輩にあたる。展覧会の開催に向け、展示資料・情報収集にあたった三浦さんは、最前線で小島の足跡と対峙する。「立場は公務員ですから、地域の地場産業を指導し量産体制を創るこという使命があり、下支え的な存在です。でも“デザインする”という営みは、民間のデザイナーと変わりませんよ」。



※産業工芸試験所=日本の産業工芸とデザインの研究・振興施策の歴史は、1928年の商工省「工芸指導所」の設立に始まる。戦後、「産業工芸試験所」と改称され、「デザイン」という新たな言葉を掲げ、生活製品と住環境の創造に関わる先導的な技術の研究と啓蒙活動を展開した。

## 自身のセンス 柔軟に發揮

### 鳥取の産業デザインを牽引

2015年2月~3月に鳥取県立博物館で開催された展覧会「知られるプロダクトデザイナー小島基と戦後鳥取の産業工芸」。おそらく多くの人たちが、この展覧会をきっかけに、小島基の名を知ることに

なったはずだ。あるいは、モダンなデザインで今も人気の高い、鳥取家具工芸製造の曲木椅子などを見て、デザイナーがその人であつたことを確認した家具ファンもいることだろう。

センスが光る婦人服のデザイン画も制作(1937年)



直線を組み合わせた繊細なデザインの椅子  
(デザイン:小島基 製作:虎尾光藝堂=1953年頃)



第6回神戸輸出デザイン展に展示された  
小島基デザインの椅子やくす籠(1962年)



鳥取の多くの職人たちと密に交流していた。  
左から4番目が小島(1955年)

## 精力的に活動、熱心な指導も

61～66年まで工業試験場に在籍したデザイナーの朝山みな枝さんは、「勤務時間中は、相談依頼者に小島のアシスタントとして、その精力的な仕事ぶりを傍で実感している。」勤務時間中は、相談依頼者にいるかのどちらか。多忙な日々でしたが、決してピリピリした感じを表に出すことはなかった。自分の仕事には厳しかったですが、人には穏やかでやさしい方。尊敬していました」と語る。

一方、当時印刷会社勤務でデザインナーだった尾崎良和さんは、新入社員時代の20歳前、初めて小島に会った時の印象が忘れられない。「美術館に展示されている日本刀を見た時のように、ゾクッとした。眼力があるというのか、全身が射貫かれるような鋭さを感じました」。

その後、しばらく交流が途絶えたものの10年後に再会。当時、小島はグラフィックデザインを手がけるようになっており、最初は印刷物の仕

アメリカ向けの輸出品として  
(デザイン:小島基 製作:池口木工所=1955年頃)



小島のデザインは包装紙やポスターなどのグラフィックデザインの領域にも及ぶ。左は和菓子の「砂丘之風紋」(京屋菓舗)、右は「梨餅」(風味堂)の包装紙

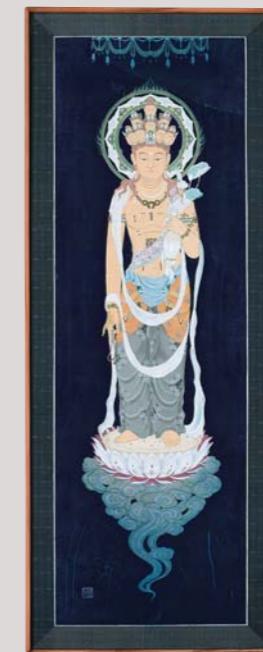
## 人の和大切に 幅広い交流



小島が10歳の頃に作った  
鍋敷き。すでにデザイン性の豊かさが表れている  
(1930年)



京都の絵画専門学校の入学前、  
キャンバスに向かう小島(1938年2月)



台湾から帰郷後によく描いていたという  
仏画のひとつ(1946年頃)



20歳の頃に描いた静物(1940年頃)

小島基は、1920年に富山県高岡市に生まれた。高岡市は鉄物や漆工芸などのものづくりが盛んな城下町で、父親の徳次は家具の製造・販売業を営んでいた。四男の基は、幼少期から絵の才能を發揮し、自らの希望で富山県立工芸学校、京都市立絵画専門学校へ進む。

卒業後は24歳で公務員となり、最初に勤務したのは台湾だった。2年後に帰国した小島は、高岡市に帰郷し絵画制作に没頭。台湾での生活の

間には、第二次世界大戦中だったこともあり、過酷な場面にも多々遭遇したという。追悼の思いを込め、十面観音像など幾つかの仏画を描いている。

47年から兄が経営する神戸の工場で働いていた小島の元にある日、「鳥取県工業試験場が新設した工芸图案部の技師を探している」という知らせが舞い込む。そして50年3月、同試験場に配属された小島は、30歳の働き盛りを迎えていた。

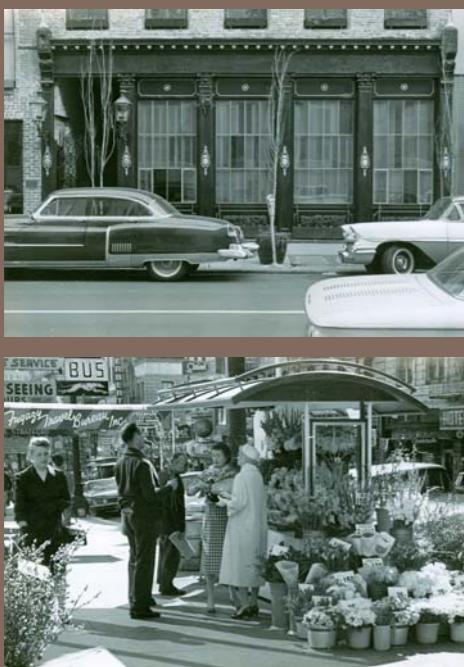
木工・竹工品・漆器・陶芸・布・紙類と、小島はあらゆる分野のデザイン指導や、新製品開発の試作に乗組み出す。なかでも熱心にデザイン指導を行ったのが、木工家具メーカーの鳥取家具工業だ。同社は、古くから曲木家具に取り組んできたが、小島の指導によって初めて、オリジナルの曲木部分の製造を担当した。鳥取民藝のプロデューサー・吉田璋也デザインの新作民藝の家具『曲木肘掛け椅子』は、日本民藝協会新作展(57年)で団体賞を受賞。小島も指導した職人の技術が生かされている。



鳥取県工業試験場は1952年の鳥取大火で焼失。小島は再興に尽力し、翌年、新しい試験場が竣工した(1953年)

## 北欧デザインの影響、色濃く

憧れ抱き先進地で貪欲に吸収する



海外視察時に小島が海外で撮影したスナップ写真。建造物の正面のデザインや人々の日常風景に注目していたことがわかる(1960年代)

小島と結婚直後、京子さんは「デンマークに住まないか?」と唐突に真顔で言われ、びっくりしたことがある。海外で暮らすことなど考えられず、即座に断ったという。また、月給が1万円に届かない時代に、2000円もするデンマーク製の小さな木工玩具を買って帰り、驚かせたことも。

1957年には、国がアメリカの家具デザイナーを招聘し、全国の工業試験場から技師を集めてデザイン講習会を開催。小島も鳥取から参加し、先進のデザイン思想に触れた。

半年後の58年、百貨店の鳥取大丸(鳥取市)で開催された『新作家具とグッドデザイン展』をコーディネートした小島。参考出品として、デンマークの近代家具デザインを象徴する代表的デザイナーのアーネ・イミール・ヤコブセンとフィン・ユール、スウェーデンの工業デザイナー、シグヴァルド・ペルナドッテによる北欧の椅子3脚を展示した。その革新的で普遍的なデザイン性と量産性の高さは、小島自身にとって目指す方向であり、地元家具業界の人たちに向けて具体的なメッセージでもあった。

61年2月~3月には、サンフランシスコでの日本輸出家具見本市出席のため、初めての海外渡航へ。その後40日間ほどアメリカ各地の工芸品・家具類を調査視察した。また、後年の68年には、憧れの北欧諸国、西ドイツ、オランダ、イタリアへ3ヶ月の長期出張へ。現地で製品の市場調査を行うと共に、行く先々で人々の日常風景に目を配りながら歩き、デザイン先進地の空気を貪欲に吸収した。

鳥取大丸で開かれた『新作家具とグッドデザイン展』。日本の産業工芸品や北欧デザインの椅子などを展示(1958年)



鋼管製品の足踏み遊戯具。他に庭園遊具などもデザインしている=1972年



個人のデザイン事務所「フォルム・エム・ケイ」の表札。立ち上げ前に病に倒れ、日の目を見なかった(1980年代)

才能を発揮した足跡が残る。作りたい、生み出したいという熱い想いは、最期まで失われることはなかつたのだろう。

正真正銘のデザイナーでありながら、公務員であるがゆえの不自由さ、悩みも多々あつたはず。それでもしなやかに立ち回り、情熱を失わず、斬新なデザインを次々生み出した奇才。その功績はカタチとして残り、今も色褪せず、輝きを増している。



離れてもなお

## 尽きぬものづくりへの情熱



好評を得たホーロー寄せ鍋。蓋にあしらわれた文様が小島らしい装飾  
(デザイン:小島基 製作:大勝=1970年代)



大阪時代には鳥取時代の作例にはなかったアクセサリー類や铸物製品も手がけた  
(デザイン:小島基 製作:不詳=1970年代)



カラフルな調味料入れ  
(デザイン:小島基 製作:大勝=1970年代)



小島が使用していた製図用具の数々

1961年には、工業試験場を事務局に「鳥取産業デザイン協会」が設立され、小島は初代会長に就任。鳥取県の産業デザイン界の振興にも尽力、63年5月、工業試験場の産業工芸科長への昇進を最後に退職した。

その後、大阪府布施市立工芸指導所、次いで大阪府立工業奨励館東大阪分館に勤務し、さらにデザイン活動を続けた。ここでは当時、新素材として着目されていたアクリル素材の家具や照明器具・钢管製品・ホー

リ製品といった日用雑貨が業務の対象となり、時代の変化を感じられる。

一方で、鳥取を離れてからも鳥取常に仕事に全力投球していた小島だったが、デザイナーとして独立する考えはなかつたのだろうか。妻の京子さんによれば、「鳥取に居た頃から、独立したいという思いはあつたようですが、デザイン指導は続けており、鳥取時代に交流のあつた漆・竹細工・郷土玩具などの職人たちが、小島の元を幾度となく訪れていた。

家具工業のデザイン指導は続けてお

たね。大阪に来てからも、「コストを気にせず、思いつきでデザインしてみたい!」とこぼす事もありませんよ」と振り返る。

81年に定年退職した小島は、いよいよ個人のデザイン事務所「フォルム・エム・ケイ」を立ち上げる計画で、表札や封筒を製作していた矢先、病床に伏してしまった。3度の入院を経て99年8月7日、79歳で逝去了。89年から晩年まで暮らした兵庫県西宮市の自宅にはそこかしこに、工芸品、ステンドグラス、襖の因州和紙に描いた装飾など、幅広い分野に



ロッキングチェア  
(デザイン:小島基 製作:鳥取家具工業=1965年頃)



鳥形文鎮  
(デザイン:小島基 製作:安本宗男=1957年頃)



マガジンラック  
(デザイン:小島基 製作:不詳=1970年代)



ネストテーブル  
(デザイン:小島基 製作:鳥取家具工業=1960年代)



エッグスタンド  
(デザイン:小島基 製作:安本宗男=1950年代)



図案入り和紙  
(デザイン:小島基 製作:鳥取県工業試験場=1950年代)



椅子  
(デザイン:小島基 製作:鳥取家具工業=1962年頃)



サラダサーバー  
(デザイン:小島基 製作:不詳=1958年頃)



キャンドルルースターク  
(デザイン:小島基 製作:共栄産業=1959年頃)



木工家具から、伝統的地域産業の竹工品、漆器、陶芸、布、紙類、雑貨まで。いつでも生活者の目線を忘れず展開した小島のデザインは、繊細さと優美さ、遊び心が同居している。それは、時を越えて今も使い手の日常の暮らしを温かく彩り続ける。



道化師仮面  
(デザイン:小島基 製作:山根清美=1955年頃)



片口形小鉢  
(デザイン:小島基 製作:鳥取県工業試験場=1960年頃)

◎参考資料  
「知られざるプロダクトデザイナー小島基と戦後鳥取の産業工芸」  
／鳥取県立博物館企画展図録2015年編  
「インダストリアル・アート・ニュースNO.46+産業工芸研究NO.28」  
／(財)工芸財団+日本工芸技術協会 2015年9月発行

間 鳥取県立博物館  
所 鳥取市東町2丁目124  
番 0857-26-8045



郷土 LOVE の紙芝居師  
ゴロ画伯の  
絵日記帳

宝探しの旅は、ここから

足元の輝きに気づいた瞬間

ほんとは近くに  
あったんだね。

▼ゴロ画伯プロフィール▼  
本名・松村宏(まつむらひろし)1962年生まれ。  
米子市出身、筑波大卒。朝日新聞社勤務を経て  
ニュース漫画家・イラストレーターとして独立。  
映画「おくりびと」の絵コンテ担当。現在は爆  
笑エンターテイメント、地域おこし、心の病気予  
防などをテーマに、自作自演の紙芝居師として  
活動中。夢は「だらず様」(地域おこしのキャラ  
クター)と漫画大仏殿の建立。

眼下に銀河が広がっていた。光の洪水のような都会の夜景に比べたら些細な規模かも。でも、米子城跡から見下ろす街の灯は、ピックリするくらい美しい。そして、いとおしい。だって光の素性がわかるんだもん。あれはあの建物だな、あれはあの通りだなんて、どのビル・道路が光っているのか、だいたい見当がつく。驚くほど遠くの光も見える。

テレビCMで有名になった、ペタ踏み坂(江島大橋)の外灯が確認できて思わずはしゃいじゃった。ホントは満月を鑑賞しようと城跡に登ったのに、すっかり街の灯に目をうばわれてしまった。

普段は見上げてばかり。満月や星空だけがキレイだと思って、いつも遠くを探しているような気がする。でも、ホントに素敵なのは足元にある輝きなんじゃないか。一人一人みんな、それぞれの色で光ってる。一生懸命光ってるんだ。そうか、コツがわかった気がする。うん、これでまた宝探しの旅が楽しくなりそうだ。

※「ゴロ画伯の絵日記帳」は今回で終了します。

## おしゃれ好きな少女の夢と挫折

純白の背景に、上に向かって咲きあがる色とりどりの花々。メタリックな輝きの上に踊る、水彩のような淡い曲線。リバーシブルで、裏返すと上品なツイード生地になるものも。皮とは思えない、表情豊かなバッグの数々は見る人を虜にする。

「驚きのあるものに出会いたくて。見本市をとことん歩き回り、素敵なお皮を探すんです」。朗らかに話すのは、バッグデザイナーの完山実和子さん。手掛ける作品そ

ひと目みただけで、女性を虜にする華やかさ。東京のデパートに出品した際にも大人気だったという



独自の加工が施されたプリントレザー(写真右)で作られた財布やカードケース。どれも一見、素材が皮とは思えない

だが、「大好きなおしゃれに関わる仕事をしたい」という夢は、すぐには叶わなかった。大阪の専門学校でインテリアデザインを学び、いざデザイナーとして就職しようと決めていた。既製服で、すでに小学生の時にはデザイナーになると決めていた。既製服は少なく、近所の仕立て屋さんに作ってもらっていた時代。「人と同じのはイヤ」と、気に入った雑誌のイラストを持参して仕立てもらつた。

だが、「大好きなおしゃれに関わる仕事をしたい」という夢は、すぐには叶わなかった。大阪の専門学校でインテリアデザインを学び、いざデザイナーとして就職しようとした時に壁にぶち当たってしまう。

働く女性への理解が乏しかった時代ゆえ、一人暮らしの女性というだけで次々と門前払いされたのだ。食べていかねばと、やむなく畠違いの印刷会社に就職。その後は生活することに精一杯で、デザイナーへの夢は日常に埋もれていた。



### かんやま・みわこ

倉吉市出身。バッグメーカーの企画デザイナーを経て、株式会社ユキトリヰデザイン事務所に入社。ユキトリヰではバッグや帽子など小物のデザイナーを務め、パリコレにも参加した。2004年秋、オリジナルブランド「La Esperanza」を創設。毎年春と秋に新作を発表している。

WB <http://miwakanyama.com/>

## 一流ブランドでの 刺激的な日々

20代後半で転機が訪れる。友人と旅したローマのことだ。店先にあったバッグの口を開くと、華やかな模様の裏地が目に飛び込んできた。

「驚いたと同時に、あ、私もデザイントしたい!こんな風に、人をときめかせるバッグを作りたいって思つたんです」。忘れていた夢を思い出した瞬間だった。

帰国して1年後、運も味方して念願のバッグメーカーに就職。夢だったデザインの仕事にまい進する。その後誘われて入ったのが、日本を代表するファッショングランデイナー・鳥居ユキさん創設のファッショングランデ「ユキトリヰ」

そこで待っていたのは、刺激的で苛烈な日々だった。先輩は厳しく、要求は高く、ピリピリとした緊張感にさらされた。泣きたくなることもあったが、「私にはもう後がない」と歯を食いしばり、雑貨デザインの技術やセンスを吸収し続けた。やがて周囲に仕事ぶりが認められるようになり、鳥居さんの右腕としてパリコレに参加するまでになつた。

### 新しい扉を開く

10年近く働き仕事に慣れてきた時、次のステップに進みたいと思

## 人生に彩り添えるバッグを チャレンジ精神でまい進



トートやクラッチ、ショルダーなど個性豊かなラインナップが並ぶコレクション

うようになつた。そして2004年に独立し、バッグブランド「La Esperanza」を設立。国内各地のギャラリーで展示販売会を開き、新作を発表し続けている。

7年前、親の介護のために出身地の倉吉市に移住。「倉吉は静かで自然豊かで、都会よりもずっとクリエイティブな作業向き」と言う。

自ら描いた絵を皮に印刷し、ラメやエナメル加工を施した独自のプリントレザーを開発するなど新たな試みも始めた。「売ったきりにはしたくない」と購入後のメンテナンスも受けており、多くのファンに長く愛好されている。

試練もたくさんあつたけれど、妥協せずに楽しんで続けてきた。「人生は楽しまなくっちゃ」。明るく、軽やかに。舞台を故郷に移し、今も新たな挑戦を楽しんでいる。

写真／文  
田中 良子 正彦

「ポール・スミス」の店と繋がっている店内



乗る人の体格に合わせて自転車のさまざまなパーツを微調整するほか、専用のシューズについても細やかにアドバイスをする

## 経験生かし、道を切り拓く

現代社会は情報が命だ、とよく耳にする。しかし、すぐに飛びつくと失敗する事も多く、逆に時間をかけて検討していると、情報 자체が古ぼけてしまうことも。なかなかに厄介な代物ではある。

フクハマ鳥取大丸店には、前かごのついた『ママチャリ』は1台もない。ほとんど全てがスポーツタイプで、しかもフレームやタイヤなどのパーツだけや、サドルの無い未完成品があちこちに。「既製品で売ることはあります。体格や目的に合わせて、ハンドル、サドルの位置調整やペダルの種類などを確認し、安全かつ快適に乗っていただけるようにしてからお渡しします」と話すのは、2代目の福浜和男さん。

1948年創業の同店も、10年ほど前までは普通の自転車を扱ってきた。しかし、量販店などで安価な商品が売られるようになり、「このままでは立ち行かなくなる」との危機感から、思い切ってスポーツタイプに特化。

地方都市では勇気のいる方針転換だったが、健康志向に加え、良い自転車がステータスとして捉えられるようになり、専門店としての地位を確立した。売れ筋は20万~30万円のもので、中には100万円以上するものもある。

経験を生かして新しい方向を目指すのか、あえて昔ながらの道を続けていくか。いずれにしても情報の選択が全てで、長く続く店というのは、それを上手く処理できたからこそその結果なのだろう。



年季の入った調整や修理の道具

### 【フクハマ本店】

所 鳥取市瓦町623(梶川通り)  
営 10時~20時  
TEL 0857-22-6327  
休 水曜日

### 【フクハマ鳥取大丸店】

所 鳥取市今町2丁目151  
営 10時~20時  
TEL 0857-25-2219 休 元旦のみ  
WEB <http://www.cs-fukuhama.com/>



驚くのは、店は隣のイギリスのファッショニメークー「ポール・スミス」と肩もくつながっていること。ポール・スミス本人が少年時代に自転車競技のレーサーを目指し、今も自転車のデザインを手掛けていることが縁という。空き店舗を補充するのにフクハマに白羽の矢が立ったそうだ。日本に約10台というその自転車がショーウィンドウを飾る。



約70年の歴史を重ねて来た本店

# 熱く舞う伝道師たち

「愛する神楽を広めたい」

鳥取荒神神楽研究会・神楽団

冷涼な空気が心地よい晴天の晚秋、靈峰大山  
の懐に残る大山三宝荒神社跡地にこの日だけ  
の特設神殿をしつらえて、約6時間にわたり3  
団体の荒神神楽が披露された。しかしそのう  
ちの一つ、「鳥取荒神神楽研究会・神楽団」  
の出番は、ほんの一部。だが、そこには最小  
規模の神楽に込められた、若者たちのあふれ  
んばかりの思いがあった。





「高校卒業後は、思いはあれど、なかなか神楽を舞えず、焦った時期もありました」と当時を振り返る徳林さん



公演を終えた神楽団のメンバー。それぞれ仕事を持っているため、公演の日程に合わせて役割を交代することもあるという



## 仲間と共に伝統の舞守る

「ドン、ドン、ドン」。神殿に力強い太鼓の音が鳴り響いた。直後、赤い狩衣に豪華な刺繡の陣羽織を羽織った事代主命が登場。左手に竹の釣竿、右手に扇子を持ち、高らかな太鼓の囃子に合わせて舞い踊る。無駄のない足運びと柔らかい小手回し、切れのよい見栄が「神様」としての存在感を醸し出している。

10分ほどの短い演目ながら見事な神楽を披露したのは、「鳥取荒神神楽研究会・神楽団」。20～30代の若者が中心の団体で、伯耆町溝口を拠点に週2回、神楽の研究・稽古を重ねている。また、少人数・短時間の神楽を各地で上演し、その魅力を発信する活動にも熱心だ。

「どうしても神楽がやりたくて」、高校の卒業生に声をかけ、2011年7月に研究会を立ち上げた。実は神楽は、一つの演目が長いもので数時間にもなる。もっと気軽に見てもうことができないかと考え、活動中に知り合った江府町の下蚊屋荒神神楽保存会明神社に相談。すると「国譲りの能」の一場面、大黒様の神楽だけをやつたらどうか」と長い神楽を10分ほどに再編してくれたのだ。出会った当初は「集



最後に事代主命と大国主命が揃って、福の種(餅や菓子)をまくと、観客はそれを受け取ろうと大盛り上がり

### ・氣枯れ(穢れ)を祓う神と人の饗宴・

落の秘儀。教えられない」と警戒されていただけに、やっと神楽が舞えること、指導を仰ぐことができる喜びがあふれた。

迎えた初舞台は大成功。鑑賞側のニーズに合った短い神楽はたちまち話題となり、神社の祭りだけでなく温泉旅館や地域イベントに引っ張りだこ。今では年間100本以上の上演をこなす。「起ち上げ当初は神楽が舞える目途も立たず、悩んでいたから、今は本当にうれしい。多くの人に神楽を知つてもらいたい」と、徳林さんらメンバーは意欲に燃えている。

恵比寿様とも呼ばれる「事代主命」の舞。華やかな衣装と機敏な動きで観客を魅了する



### 【神楽の起源と歴史】

「神楽」とは神が姿をあらわす様であり、祈りの形だ。神に祈る神楽、神と人が共に楽しむ神楽、芸能として人を楽しませる神楽があるが、中国山地の荒神神楽はそれらのすべてを合わせ持っている。神楽の起源には諸説あるが、そのひとつとして『古事記』や『日本書紀』に、天の岩戸に姿を隠してしまった天照大神を再び外へ連れ出すため、天鉏女命という女神が岩戸の前で足を踏み鳴らして踊ったという神話がある。

氏神様に収穫の感謝を捧げ、来年の豊作や病気平癒を願う儀式としてなど、神楽は、全国各地の集落にさまざまな形で残っているが、荒神神楽では神を降ろし預言を授かる託宣が行われるのが特徴だ。鮮やかな刺繡で飾られた衣裳を着て舞う「舞手、舞方」と、楽器を演奏する「お囃子、囃子方」がある。神社内の神楽殿や田に掛けた神殿で行われる夜神楽には、集落の人々が集まり、夜を徹して朝まで神楽を見物する。時には数日間にわたって行われることもある。

中国地方では、「佐陀神能(島根県)」「大土地神楽(島根県)」「大元神楽(島根県)」「比婆荒神神楽(広島県)」「備中神楽(岡山県)」「三作神楽(山口県)」が国の重要無形民俗文化財に指定されている。鳥取県では江府町の「下蚊屋荒神神楽」が最も古く、県の無形民俗文化財に指定されている。

熱き思いを語るのは会長の徳林亜美さん。出身校である県立日野高校郷土芸能部でオロチ退治の荒神神楽に一目惚れ、高校時代は神楽漬けの毎日を送っていたという。

しかし卒業後、米子市で就職すると

それはいかなかつた。指導者も活動場所も衣裳もなく、ましてや周囲は

神楽つて何? 』という反応。「それならばまず神楽のことをきちんと学び、広めることから始めよう」と同

年7月に研究会を立ち上げた。

実は神楽は、一つの演目が長いもので数時間にもなる。もっと気軽に見てもらうことができないかと考

え、活動中に知り合つた江府町の下蚊屋荒神神楽保存会明神社に相談。

すると「国譲りの能」の一場面、

大黒様の神楽だけをやつたらどうか」と長い神楽を10分ほどに再編してくれたのだ。出会った当初は「集

## おおくにぬし | 大国主の縁結び神楽 III

島根県出雲市・出雲大社の祭神であり、縁結び・五穀豊穣・福德円満・健康長寿などの御利益をくださる「大国主命（大黒様）」が、荒野を耕して田畠を成し、治水と医療・まじないで国を造って広げ、竈巡りで人々の豊かな暮らしを確かめて福の種を授けるというありがたい演目。右手に扇子、左手に小槌を持って軽やかに舞い踊る。お餅やお菓子、5円玉などを包んだ「福の種」をまく演目の最後は毎回大盛り上がりで、子どもからお年寄りまでに喜ばれている。



## ことしろぬし | 事代主の鯛釣り商売繁盛神楽 III

「事代主命」とは福の神・恵比寿様のこと、大国主命の御子神。島根県松江市にある美保神社の祭神で、商売繁盛・大漁満足・海上安全に御利益がある。その事代主命が美保の浜沖で鯛を釣り上げるというおめでたい神楽で、若々しく機敏に片足で跳ぶ様子が見どころ。鯛を釣り上げる所作も躍動感があり面白い。大国主命の神楽と合わせ、「恵比寿大黒の寿福舞」として舞うこともある。

※その他、要望によっては10分程度の大蛇退治や、数時間の神楽も受け付け中。  
（要問い合わせ）



毎月第3木曜日に開いている「神楽ふれあい体験会」。神楽の解説をしたり、実際に舞の部を体験してもらう。老若男女さまざまな人が集まり、リピーターも多い。

問 鳥取荒神神楽研究会・神楽団  
☎ 090-1331-6348(徳林亞美携帯)  
WEB <http://kagura.kaiz.asia/>  
FB <https://www.facebook.com/kaguken.tottori/>

「神楽愛の伝道師」なのだ。



## 演目 4つの

鳥取荒神神楽研究会・神楽団が演じているのは、短時間のものが現在4演目。その内容を紹介する。



## くせまい 曲舞 III

荒神神楽の基本となる所作の舞で、新人の「顔見せの舞」。神前で神楽を行う前の、清めの舞のような位置付けもある。左手に御幣、右手に扇子を持って舞い、神歌を歌う。採物を持つ小手を滑らかに、かつリズミカルに回すのがポイントで、重心のぶれない正確な足さばき、神楽独特の所作も見どころである。

## 浦安の舞 III

1940(昭和15)年の「皇紀2600年奉祝会」に合わせ、全国の神社において奉祝臨時祭を行うために制定された神前神楽舞。当時の宮内省樂部の樂長であった雅樂家・多忠朝氏が作曲・作舞したもので、笙や壘篥、箏、太鼓などの演奏に合わせて舞姫（巫女）が舞う。前半は扇舞、後半は鈴舞。その踊りは優雅で美しい、神秘的な雅樂の音色と相まって厳かな雰囲気に包まれる。



## 楽しさ伝えて地域に元気を

「国の重要無形民俗文化財のすごい技。普通は習えるものではないのに」と、この温かい協力に感謝した。

また、昨年夏からは「子ども神楽」の取り組みも開始。徳林さんらの活動を知った会見第一小学校の教頭先生が、「地域に新しい文化を根付かせたい。ぜひ子どもたちに神楽を教えてほしい」と声をかけてくれたのがきっかけだ。徳林さんは早速、広島県内で子ども神楽を行っている比婆荒神神楽保存会代表の横山邦和さんに相談。すると「県をまたいで子どもたちが交流できるのは素晴らしいこと」と、社中の曲舞（神楽の演目のひとつ）を指導してもらえることになった。



会見第一小学校で神楽を指導する徳林さんら。

こうして「あいみ子ども神楽塾」を創設、稽古に稽古を重ね、11月の学習発表会では4人の小学生が可愛らしい曲舞を披露した。「ゆくゆくは集落の祭りやイベントでも披露できるようになり、子ども神楽で地域を元気にしたい」。発表会後は興味を持った子どもが新たに加わっており、次の目標に向かって練習に励んでいる。

研究会のこうした活動は、時にメディアに大きく取り上げられるが、決して中国地方の山中に残る伝統的な荒神神楽をないがしろにするものではない。彼らは神楽が大好きで、この素晴らしさを多くの人に知つほしいと、驚くほど生真面目に願つているだけ。そう、彼らはきっと「神楽愛の伝道師」なのだ。

料理長おまかせコースは2000円、3000円、4000円の三種。写真は2000円で、前菜は生あわ麩の炊き合わせ、生湯葉、出汁巻玉子など。刺身はヒラマサ、ヨコワマグロ、アカガレイ。サワラの西京焼き、柿白和えや明太子松前漬け、カニ雑炊、抹茶アイスクリームなど全7品。内容は、境港に揚がった魚や季節によって変わる。15人以内なら貸し切りも可能。(すべて税抜き)



## 旬彩えん

所 米子市万能町198  
0859-21-7550  
営 17時30分~22時  
(21時30分LO)  
※昼間の営業は予約のみ  
要問い合わせ

休 月曜



## ■■コスパ高い本格和食■■

気軽に旬の本格和食を味わえる店。店主の那須正治さんが、季節の素材でこしらえるおまかせコースは、品数と色とりどりの華やかさ。ひと目見た瞬間に気分が上がる。那須さんは境港の漁港で働いた経験もあり、地元の魚を知り尽くした上で、メニューを組み立てる。味や歯ごたえの違いで飽きさせず、箸もお酒もついつい進む。

老舗出し店が「客と対話をしながら料理を提供する場を」と店を出した。仕出し料理のプロでもある那須さんは「お客様の反応がわかるのが楽しいですね」。

カウンター越しに会話が弾み、客が薦める日本酒を仕入れたことも。名物の出汁巻玉子は、ボリュームたっぷり。ふわふわの玉子の周りに出汁を張り、スダチのスライスを浮かべた。「出来上がりから時間がたっても、最後まで出汁を十分に味わえるように」との配慮だ。おいしいものを最高の状態で、という工夫が隅々に光る。

価格も抑えめで、お値打ち感は抜群。コストパフォーマンスに敏感な女性客が半数以上というのもうなづける。

※出汁巻玉子は、希望によりコース内に盛り込むことも可能。

文／松村 亜紀子 写真／佐野 明美

## 伝統守り、鷹のごとく勇ましく

## 大谷酒造(琴浦町)

思わず心が勇み立つようだ。旨みがきらめきながら全身に染みこむ。『鷹勇』である。

「大空を舞う鷹の勇姿に初代当主(1872年創業)が魅せられましてね」。そのイメージを蔵の代表銘柄にした、と5代目社長・大谷修子さんはにっこり。145年前の当主の氣概が、今も大谷酒造の杜氏や蔵人たちの情熱を刺激しつづけている。

近年、世の中が大量生産。合理化の風に巻きこまれることが多かったころ、伝統的な「山廃仕込み」(※)を復活させた。手間もかかりリスクも高いが、熟成がゆっくり進むことでスッキリとした力強い酒となる。まさに『鷹勇』の真骨頂といつていいだろう。

辛口の、いつまでも心に残る酒である。これまで全国新酒鑑評会で金賞を13回受けている。また、2人の杜氏が「現代の名工」にも選ばれている。「初代も満足でしょうかね」(大谷さん)。

和醸良酒をモットーに、日本固有の文化を鳥取の空から次世代へと、きょうも大谷酒造の鷹は力強く羽ばたいている。

※山廃仕込み=日本酒の作り方の「生酛系」の一つ。



一貫して辛口の酒を造り続ける大谷酒造

問 大谷酒造株式会社  
所 東伯郡琴浦町浦安368  
0858-53-0111  
WB <http://takaisami.co.jp/>

酒  
蔵  
めぐり  
とつとり



## 【情報メモ】

伝統を頑なに大切にしてきた大谷酒造だが、新たな挑戦もある。2011年、「いちじくクイーン」と銘打った日本酒ベースのリキュールを販売。完熟のイチジクを使用しており、「飲みやすく体と肌にやさしい」と好評だ。現在はイチジクを地元の契約農家に作ってもらっているが、今後は自作による増産を目指している。

文／須崎 俊雄 イラスト／谷繁 淳子

良い  
はしご  
酒



【問】  
公益財団法人  
ふるさと鳥取県定住機構  
所 鳥取市扇町7  
鳥取フコク生命駅前ビル1階  
0857-24-4740  
http://furusato.tori-info.co.jp/

- ▼IJUターン就職に関する相談  
010-307-238  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
- ▼移住に関する相談  
○鳥取県移住定住サポートセンター  
010-841-558  
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
- とっとり移住定住ポータルサイト  
http://furusato.tori-info.co.jp/iju

自分で作曲も手がける中村さん



**[PROFILE]**  
◎家族構成／夫・中村好伸さん、妻・具子さん  
◎移住前の住まい／東京都世田谷区  
◎移住時期／2014年4月  
◎現在の仕事／セレクトショップ経営  
好伸さん／ギター奏者  
具子さん／ガラス工芸作家



## 創作活動のベースに 店舗を開設、2人の

「ここで音楽活動をしよう」と、いざなは倉吉に戻りたいと考えていました」と話す中村さん。その決意を以前から知らされていた具子さんも、東京を離れることに異存はなかった。2014年に帰郷して2年目に、倉吉市の『にぎわいのある商店街づくり事業』を活用し、ここ白壁土蔵群の一角に、ギャラリー店舗兼創作活動の事務所を構えることになった。店で売る雑貨は、夫婦でセレクトする。2人の創作活動と同様

店内に静かに流れるBGMの音源は、主にオーナーの中村好伸さんが奏でるアコースティック・ギターの音。素材にこだわり作り手の思いが詰まった作品を吟味し、生産地に直接出向いて仕入れを行っている。

また、店内でライブイベントや、具子さんが企画する手作り教室のワークショップも開催し、地域とのつながりが広がってきた。「お客様や人とのつながりを通して、居心地の良さを実感するようになりました」と話す具子さんは、ガラス作品を母校の工房や近隣のレンタル窯（溶解炉）で制作しており、いつかは倉吉に自分の窯を持つのが目標だ。

※レーベル＝レコード会社の傘下にある各部門



古い蔵をリノベーションした店内。シンプルで趣ある内装は、工務店を営む友人の協力で中村さん夫婦好みのテイストが反映されている

### ◎セレクトショップ経営(倉吉市)

## 中村 好伸さん

鳥取県倉吉市生まれ

## 大家 具子さん

兵庫県神戸市生まれ

文／島 香子  
写真／萱野 雄一

ガラスの器と音楽の店、「saon」。  
2016年6月、倉吉市魚町の玉川沿いに  
オープンしたギャラリー店舗が、  
ファッションや雑貨にこだわる人たちの  
注目を集めている。  
オーナーは、2人のクリエイター。  
地元にUIターンして3年目の  
中村好伸さん・大家具子さん夫婦だ。

### 作り手の思いが満ちた店

CDアルバムだ。神戸の大学を卒業後、2001年からインストゥルメンタル楽曲の自主制作を開始。09年以降、東京のレーベル（※）からCDを発表するほか、全国各地でライブ



一方、妻の具子さんは、倉敷芸術大学でガラス工芸を専攻。卒業後は、出身地の神戸で作家活動をスタートさせた。その後、具子さんのギャラリーで中村さんがライブを行ったことをきっかけに結婚。05年には、活動拠点を神戸から東京に移

色を使わず、ガラス本来の素材のやわらかさと透明感を大切にしたデザインの器がズラリ



■saon■  
所 倉吉市魚町2521-1F  
0858-38-9023  
10:00～18:00(※要確認)  
火曜日 または 不定期

店は倉吉市内の白壁土蔵群の一角にあり、観光客も多く立ち寄る



■□■ 112号の感想から ■□■

壁のボンボン時計がレトロな雰囲気でいいですね。メニューも安くてびっくりです。遠いからすぐには行けないけれど、いつか行ってみたいですね。

(愛知県豊田市 和田 康代)

「古今時代屋」の「軽食喫茶ハマ」。黒子に徹する「素晴らしいお仕事でいいですね」。メニューも安くてびっくりです。遠いからすぐには行けないけれど、いつか行ってみたいですね。

(神奈川県川崎市 長谷川 喜美江)

毎号楽しく読んでいます。今回は特に女性消防団の記事に興味を持ちました。地域に密着した活動で災害に備える団員の方々、これらも地域の安全のために頑張っています。応援しています。

(鳥取県三朝町 入江 則仁)

鳥取県出身の自分にとって毎回、懐かしく拝見しています。今まで知らないなかった事がたくさん詰まっています。読み応えのある内容に満足しております。これからも素晴らしい誌面を作り続けてください。

(岡山県浅口市 福場 徳正)



当クラブは1909年1月、「南加鳥取県人会」として創立しました。その後、日系3~5世の若い世代にも馴染みやすくするために、現在の「南加鳥取クラブ」に改名し、今年108年目を迎えます。2009年10月には、クラブ創立100周年の祝賀式典を盛大に開催し、当時の鳥取県文化観光局長にもご参加いただきました。

活動は、会員の親睦を図るための新年会や親睦旅行のほか、同じ地区の日本全国の県人会と情報交換を行っています。なかでも、毎年7月に開催する「サマーピクニック」は、婦人会の数十種類におよぶ手作り料理が味わえるとあって、毎年大盛況。特に鳥取県の郷土料理「鶏おこわ」や日本料理が人気です。また、鳥取県の伝統芸能「傘踊り」の披露もあり、ふるさとを想う大切な集いになっています。

今後も日本文化の継承などさまざまな分野で、若い方が活発に活動していくような環境作りを目指します。

## 郷土料理や踊りでふるさとに親しむ



鳥取県には、クラブ活動に尽力した高齢者に表彰状の贈呈や補助金等の支援をいただき、大変感謝しています。会員の高齢化が顕著ですが、次世代も楽しめるクラブを目指し、活動を進めていきたいです。

会長 牧 進

### ▽南加鳥取クラブ概要

設立/1909年1月  
会員数/約100名(2016年12月現在)  
会費/なし  
入会方法/事務局へ連絡

### ▽問

南加鳥取クラブ事務局  
+1-310-324-4035(牧会長・自宅)

※「縁すまいる」は今回で終了します。

卷頭特集の「木と生きる木と暮らす」や女性消防団の特集で、若い人たちの活躍ぶりがわかり、嬉しい限りです。また「ここにこの人」の秦博志さんの古文書修復のお仕事は、「ほんとにすごいなあ」と感動しました。

(広島県広島市 吉田 仁美)

女性消防団の記事には驚きました。私の知る限りでは、広報活動や救急時の対応の指導等が主な活動で、ポンプによる消火活動の訓練はやっています。私は、この時代屋の特集はとても興味深いものでした。デジタル全盛の時代に、このようなアナログな方法で紙自体を修復する専門技術があることに、驚きました。巻頭特集も、実際に働く人と森の様子がよくわかり、とても勉強になりました。

(広島県竹原市 南政和)

規模は小さくても高い技術と品質を誇る企業はたくさんある。しかし、その多くが情報発信不足で後継者もいないのが現実だ。ウェットスーツの製造などを手掛ける大洋潜水も、そんな悩みを持つ企業の一つだったが、この春から若い新戦力が加わり、可能性を無限大に広げている。

## 新戦力加え高い技術を全国発信



写真上は北海道の流水見学ツアーでレンタルする「ドライスーツ」。「ウェット・ドライスーツの需要は、レジャーだけでなく実は多様にあるんですよ」と語る名倉さん(写真左)。

見て、「これを必要としている人は、他にも大勢いるのでは」と情報発信の必要性を感じた。そして大学卒業後の16年春、入社した。

名倉さんは同年8月、「大洋潜水」

の製品の販売やレンタル事業などを行う新会社「海難装備」を設立。そこで富澤さんが、義肢用防水カバーから発展した完全防水の義肢をインターネットで情報発信したことでの、

名古屋のユーザーのテスト使用につながった。このほか、富澤さんが販路開拓で歩いた北海道では、今冬から発展した完全防水の義肢をインターネットで情報発信したことでの、

2011年の東日本大震災発生時に気仙沼市へボランティアで駆け付けて、鳥取環境大学教授の吉永郁生さんと一緒に活動した。その後も海洋調査など一緒に活動する中で、吉永教授の研究室の学生だった富澤亮さんと一緒に活動を進めています。

潜水士の資格を持つ名倉さんは、潜水士の資格を持つ名倉さんは、

2011年の東日本大震災発生時に気仙沼市へボランティアで駆け付けた縁で、鳥取環境大学教授の吉永郁生さんと一緒に活動した。その後も海洋調査など一緒に活動する中で、吉永教授の研究室の学生だった富澤亮さんと一緒に活動を進めています。

活動を通じて、名倉さんの人柄や大洋潜水の技術の高さに惹かれています。名倉さんが友人のた

「[...に]この人」の特集はとても興味深いものでした。デジタル全盛の時代に、このようなアナログな方法で紙自体を修復する専門技術があることに、驚きました。巻頭特集も、そこに働く人と森の様子がよくわかり、とても勉強になりました。

●113号プレゼント応募用クイズ●

Q

商売繁盛などにご利益がある福の  
神・恵比寿様の別名は？空欄の3  
文字に漢字でご記入ください。

			命
--	--	--	---

112号のクイズの答えは  
「瀧きばめ」  
「ここにこの人」の記事中に正解があり。

## 読者プレゼント

応募〆切  
2017.  
**3/31**  
消印有効

■応募方法  
貢右上のクイズの答え、ご意見、ご感想とともに希望の商品名と記号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、下記までお送りください。ハガキまたはメールで受け付けています。なお、感想が次号に掲載される場合、住所、氏名が明記されることをご了承ください。

■プレゼント応募にはクイズへの回答が必須です。本誌を読み、貢右上のクイズにお答えください。

■応募先  
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220  
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)  
「とつりNOW読者プレゼント」係  
メールアドレス : now@kouhouren.jp

\*お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

A



【3名】

鷹勇 純米しぼりたて生酒 (720ml)

精米歩合50%まで磨いた辛口の純米酒。フレッシュ感とフルーティーで芳醇な香りが漂う。しっかりと

した米の旨味とふくらみのある味わいが堪能できる。

問 大谷酒造株式会社

☎ 0858-53-0111

B



【10名】

「神のつぶ」「神のしづく」セット

(納豆40g×6、豆乳500ml×2)

みささちよう  
三朝町限定生産の地大豆「三朝神倉」の納豆と豆乳のセット。納豆は大粒で柔らかく、豆乳は濃厚なのに後味はすっきりで飲みやすい。滋味豊かな逸品だ。

問 JA鳥取中央市場開発部直販課

☎ 0858-28-2825

C



【5名】

つつじ彩菓 (50g×6種)

コシヒカリの米粉をふんだんに使用した手作りの焼き菓子。サクサクした食感が特徴で、味はきなこ、抹茶、イチゴ、ショコラート、チーズ、塩の6種類。

問 有限会社真栄農産

☎ 0858-45-2609

D



【10名】

ブラックベリージャム (150g)

ほくさいちよう  
北栄町で栽培した農薬・化学肥料不使用のブラックベリーとグラニュー糖のみで作ったジャム。程よい甘さとさわやかな酸味で、パンやヨーグルトに合う。

問 いいだファーム

☎ 0858-22-7720

E



【3名】

Swance砂丘らっきょうセット (3種類)

砂丘らっきょうのピクルス(プレーン、赤シソ)と柚子味噌漬けのセット。ピクルスは刻んで漬物に、柚子味噌漬けはご飯のお供にオススメ。

問 株式会社センセイ堂デザイン

☎ 0857-22-1122

F



【3名】

手ぬぐい専門店かまわぬ×青杏+  
オリジナル手ぬぐい (縦90cm×横33cm)

鳥取県の名所や特産品をモチーフにしたデザインの手ぬぐい。種類は鳥取砂丘、米子水鳥公園の渡り鳥、二十世紀梨のいずれかをプレゼント。

問 今井書店 青杏+

☎ 0859-37-6700

G



【3名】

砂ねんど (200g)

鳥取砂丘の砂(国立公園外)を使用した砂粘土。水を加えるだけで粘土のように扱え、自由に成形できる。小麦などアレルギーを含む材料は不使用。

問 モルタルマジック株式会社

☎ 0857-82-6660

H



【3名】

二十世紀梨しゃぼん (60g)

県産二十世紀梨を使用した洗顔石けん。梨に含まれる天然石細胞と梨蜜を配合。肌の汚れをすっきり落とし、洗い上がりはしっとり。

問 farm garden チのゆび

☎ 0858-22-1722

## Editor's note

□ ■編集後記 ■□

まさに「能ある鷹」。ホンモノのデキる男は、いつだって謙虚で控え目だ。巻頭特集(4頁)の小島基さん。情熱を胸に秘めつつ、印象は「いつも穏やか」だったらしい。▼ものづくりはデザイナーと一緒に手とのコラボレーション。両者の連携には、綿密なコミ

ュニケーションが不可欠だ。彼には才能とともに、それを成し遂げる豊かな人間力という才覚があった。だから周りには、常に人が集っていたのだ。決して多弁ではないのに。▼そして、妻の京子さんが語るエピソードの数々からは、やさしさに満ちた暮らしぶりが浮かぶ。「私の棺桶に入れてねって娘に言っているのよ」と、取り出されたのは、彼が旅先から送

った『ラブレター』。イラスト付きで誠実な気持ちが綴られていた。感動でじーんと胸が熱くなる。もはや、惚れてしまいそうな勢いだ。(笑)▼さて。幸せのお裾分けをいただいた気分の私は「この先、運命の出会いがないとも限らんな」と、急に未来を楽観視。隠すほどの爪はないが、「単純さ」という「生きる力」は、あるらしい。(苦笑) [Hi]